

日本人の心を、クラシック音楽で満たし温めたい――

スマートな容姿からは想像できないほどの、力強い指揮と演奏。新進気鋭の演奏家として国内外で活躍する鈴木さんは、音楽に満ちあふれる環境の素晴らしさを、全力で発信しています。

### 【歩み始めた音楽の道】

鈴木さんがピアノと出会ったのは10歳の時。演奏家としては、決して早い出発ではありませんでした。

「ピアノは遊び感覚で始めなんです。でも、1曲弾けるようになる度に楽しくなつて、高校に進学した頃には、演奏家としての将来を考えていました」と鈴木さんは穏やかに振り返ります。

出遅れた演奏経験への焦りを、意外な形で彼の背中を押しました。「早く上手に弾きたくて、自分で指導者を探して県外の教室に通っていました。でも、



周りには上級者ばかり。課題曲を弾けない自分に悶々とする日々でした。その一方で、悔しさは足りないものを客観的に教えてくれ、技術と専門知識をもっと修得したいという気持ちを一層強くしました。

た、ピアノデュオを結成して精神的に活動するなど、数々の実績を残した鈴木さんは、3年生でフィンランドへの短期留学奨学金を得ます。「渡欧して、日常にある音楽の存在に驚きました。ク



若くしてオーケストラを率いる演奏家  
鈴木啓資さん（野田）

それが無かったら、親に心配を掛けてまで、音大を受験しなかつたと思います」

【自らの殻を破った留学】  
音大に進学し、在学中には多くのコンクールで入賞。ま

ら、偶然にもハンガリーの名門「リスト音楽院」を同時期に薦められます。音大を卒業した鈴木さんは、同院への長期留学を迷わず決断。現在はピアノや語学のほか、指揮やバイオリンも学んでいます。

### 【手力を注ぎ感動を生む】

鈴木さんは、昨年1月のピアノ公演に続き、今月は指揮者としてオーケストラを率いて、凱旋公演を開催します。

「前回は、地元の皆さんからいただいた応援が、大きな自信となりました。その際に口走った再公演の公約が、結果的には自分を奮い立たせ、今回の楽団員40人以上を集める原動力となったんです。目標は、会場へ足を運んでくれた人の心を音楽で満たし温めること。そのために持てる力を振り絞ることが、支えてくれている皆さんへの恩返しだと思います」

音楽への情熱は、賞の数では測れないという鈴木さん。表現力を磨くため、練習にも全力を挑みます。故郷でタクトを振る23歳の姿は、きつと逞しく見えるはずですよ。



(左)鈴木さんが暮らす首都ブタペスト  
(下)練習でタクトを振る鈴木さん



アルディ・フィルハーモニー管弦楽団 第1回演奏会  
3月28日(出) ⑨プラザお  
おるり ☎36-7222 ⑨サウ  
ンドイシカワ ☎36-3000

Shimadian File #56

